

討魔の
アズキは
あきらめ
ない



18
ADULT ONLY

淫魔狩りの
「斬姫」……

……まさか
これ程とは……

あとは親玉を
潰すのみ……

街中に
蔓延る僕共は
狩り尽くしたは

つ……潰れるのは
手前エの方だ!!



無駄だ

淫魔は一匹
たりとて

!?

生かしては
おかない

母体級の
淫魔だ

胸が
千切れた程度で
死にはすまい

キッ...

細切れに
斬り刻んで

止め...を



討魔忍アズキ

淫魔に対して特に強い敵意を持ち、その全てを狩り尽くすべく戦う少女。
かつては凄まじい霊力を揮い妖魔を滅していたが、現在は刀での高速戦闘が主軸となっている。
それでも戦闘能力は一級品であり、彼女が狙う淫魔達からは『斬姫』と呼ばれ恐れられている。




淫魔

人の世に害を与える妖魔達の中で、特に性的な害をもたらす妖魔の通称。
小粒な淫蟲や無数の触手を駆使する者が多く、人間の、特に若い女性を好んで餌食とする。
元は非力な淫魔でも、快樂を通して人間から精気を奪う事でどこまでも強化していく上に、
ひとたび毒牙にかかると例え歴戦の討魔戦士であってもその快樂から逃れることは
難しいため、非常に厄介な存在である。

霊気・精気

どちらも生命の根幹を支えるエネルギーであるが、殆どの人間は精気の比重が大きく、妖魔に
対抗できる霊力を大量に宿す者は少ない。豊かな気(生命力)を持つ者は身体能力も高くなる。
一方、性感神経の鋭敏さも相応に高くなってしまふ為、霊力に優れた討魔戦士にとって淫魔は
互いに天敵同士である。

■「こんなにちわ、灯ひでかすです……初っ端からお見苦しい出だしてすいません。
えるシーンはちゃんと描いてあるから許してください。」



人に仇なす
妖魔を討つ

優れた霊力を
持つが故
古来よりその使命を
自らに課し

世を陰ながら
守護してきた
討魔の一族

その長い歴史の中でも
比類なき霊力を
持つて生まれた私は

平和のため…
そして

私を見込み
支えてくれる
姉上のためにも

幼い頃より
一族の期待を背負い
多くの上級妖魔すら
戦果に挙げていた

戦い続ける
んだ

ひっやだ...
そ...こお...ツッ
もおやだあツッ

俺様にも運が
向いて来たかア?

これだけの
力を喰らえば
どんな相手でも
犯し放題よ

初めての敗北

変になるツッ
あ...たま...ツ

ヘンになる
よ...おおツ

あ...ね
うえ...ツ

初めての
快樂——

姉上ええツッ

アズキ...ツ

私が付いて
いながら...ツ

淫魔は
人がいき果てた際の
気を喰らい進化する...

淫らに
霧散させられた
霊気は糧としては
最たるもので

極上の
餌となった私は
官能の意味も
分からぬ身体を
容赦なく貪られた

かは

あは

あは

あは

あは

あは



アズキ……
貴女の力は……
多くの人々を……
救うもの……

幼心が抱いていた
討魔の矜持は
容易く砕かれ

終わりの見えぬ
絶頂の波に



こんな所で……
終わらせたりは
しない……ッ



姉上は……
自らも淫魔に
穢されながら



ぬう……ッ!?



無様に泣きじゃくる
その時——

残る一枚の
秘転の霊符……

最後の力で……私を――

クク……なるほど

淫魔オシロの間で
恐れられた
斬姫が

まさかあの時の
小娘だったとはな

霊力を殆ど
感じねえから
気付かなかったぜ

……まあ
姉の小癩な術で
逃げ延びたとはいえ
散々喰らって
やったからなア？

そこから再起
出来ただけでも
驚きか……

だが――

ふざけるなッ!!

貴様は…ッ

貴様だけは
絶対に
この手で—

強がるなよ
一度でも
淫魔の快楽を
刻まれた身体が
元に戻る事は無い

軽く触手が
触れただけでも
気をやりそう
で堪らん筈だ

かつてあれ程
仕込まれた
身体となれば
尚更よ

だ…ッ
黙れ…!!
こ…んな…
もの…ッ

こん♡

なっ…♡



そら
もうイツた

…くく…

クク……
それにしても
イイ女に
育ったもんだ

ふっ……!!

霊力が
失せたとはいえ
滾る精気は
申し分なし…

ヒヒ…今度こそ
しゃぶり尽くして
やるぜえ

だ…黙れと
言っている…ッ

気高き姉上の
姿を奪って…
そのような
穢れた物言い…
許さない!!

気高いねえ…

はしたなく
イキ顔晒して
泣き喚いてた
姉上サマがよ

な……

せつかくの
ご馳走を
逃がされたんだ

そりやあ
徹底的に懲って
やったさ

ま力を
使い果した後の
搾りカスみたいな
もんだったがな

流石は
姉妹だよなア

姉上

私のせいで

さてと姉の体を
傷付けるような
悪い子には仕置きが
必要だよな……？

あの日の続きと
ないか……

情けなく
許しを請うサマは
あの時のお前
そつくりだったぜ

太

触獄——

またこの
忌まわしい空間を
目にするなんて……

ククク…
懐かしい
景色だろう？

る

……一面の肉壁
胎の奥まで
灼けるような淫気……

キョ

だが淫気濃度は
あの頃の比じゃあ
ないぞ……

姉上……っ

死んじやう
よお……っ♡

姉上えツツ♡

る

+

馬鹿な!

あれからお前の姉を含め
数多の女を喰らって
来たからなあ

そのために己を
磨いて来たのだ

力だけでなく
心も

あの頃
とは違う!!!

今度は
逃がさねえ

手前エに
斬られた傷と
下僕の分

これ以上奴に
遅れを取ら
ないで
たまるか

勝機はある……

耐えるんだ
……今度こそッ

——その快樂で
贖わせてやる!!



な…んだ…!?
これ…は…あッ

淫…気が

身体の…中…
流れ…込ん

震え…
て…え…ッ!?

随分と
邪魔つけなモン
くっ付けてる
じゃねえか

そんなに
『そこ』を
守りたいかア?

クク…まあ
そうだよなア

あの時散々
鳴かされた場所
だもんなア!?

そう

あの時
知った…
私の弱点

淫魔の捕食量は
獲物の快樂に
比例する…

…ま
無駄な足掻き
だけだな

淫気の振動波だ
文字通り
身に染みただろ

やはり…危険だ…
そこ…は…ッ

さて今度は直に
可愛がつて…

……ん？

あまりに—

…成る程

感度抑制の
封淫まで
施してると
ワケか？

念入りな
事だぜ

だが—



封淫には
気の安定が
必要だ

あの陵辱以降…
淫魔の呪いを
受けたかのように

私の身体

こうして絶頂で
気を乱し続けられ
その印も直に
霧散する

特に
陰核は淫らさを
増し続けた…

クク…もう
既に綻びが見え
始めてるぞ？

封淫なくしては
修行はおろか
日常すら送れぬ
有り様

い…今これが
解けたら…

なぞ…

オム…

ハハハ

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム

オム



一体

どれ程の

抑制した上で
その感度……

シヨック死
するかもなア？
封淫が
解けちまつたら

是非喰らわせて
貰うぜ……
そんな時のお前の
精気をよオ？

弱気になるな!!

覚悟は決めた
筈だろう……ツ

耐えるの
だ……

「あれ」に
耐えて……

私は

わた

し

は

!!

!!

徹底的に
いき飛ばすんだ

全身で
可愛がつてやるに
決まってるだろう

陰核に
意識が行き
過ぎてたか？

なあに
呆けてんだよ

♡♡♡♡♡

!!



内側まで
隅々と...な♪

ハッ！
流石に嬌声を
押し殺せなく
なったかア？

体内から響く
淫波振動の
心地はどうだ

被せ物越しには
浴びたものとは
桁違いだろう？

絶頂が膨れあ...

か...

淫気の波が全身の快樂神経を反響しながら蹂躪する――

――かつて圧倒的な靈気波動を放射し触れただけで妖魔を消し飛ばしていた

は破裂...

...するン...

意...が識

お前の力を喰らって得た能力さ

イ...き...
過ぎ...て...え

お前の姉も
こいつで心を
押し折って
やったのよ

姉う…え…ッ

…けな…っ♡
わら…ひッ…♡

こ…んな…
快樂…にッ♡

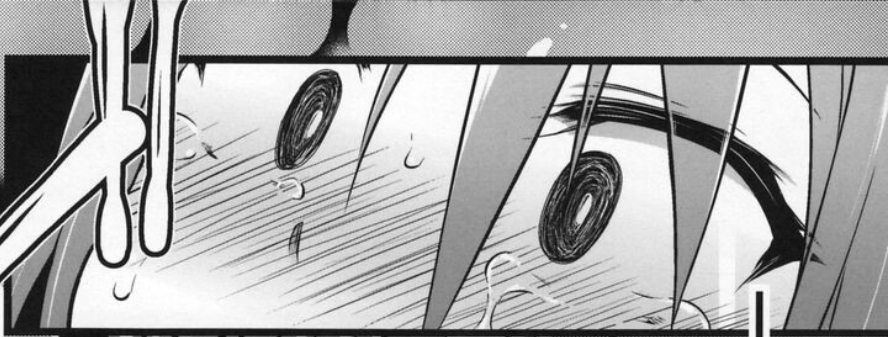
おうおう
絶頂キツ放しに
されてるつてのに
健気だねえ

…そこまで
言うなら
見て貰うかア?

頑張ってる姿を
お姉ちゃんによ

淫…魔…
なん…かに…ッ
負けな…ひッ♡
から…ああ♡♡♡





おいおい
まさか
くたばってる
と思つたのか?
薄情な妹だぜ



はあ。

……!?

77:
言つたら?
体を借りてる
……つてよ

もつとも
中身の方は
とつくの昔に
廃人同然だがなア
クカカカツ!!



次はお前の体を
借りてやつても
良いんだぜ?

絶頂き
くたばらずに
済んだらの話
だなア

あ?…ねう……

ろす……ツ



ズ
ズ

殺ひてやるッ!!!

姉上...おを...ッ
よ...よくも...ッ

こん...にゃ—

殺す...う...ッ

絶対...ッ
こッ...
ころひゅ...ッ

気概だけじゃあ
堕ちた身体は
誤魔化せねえ

ククク
残念...そりゃ
無理な話だ

手前エの身体は
胎の奥までとくに
蕩け切ってるのさ

そしてこれで—

—タイム
リミットだ

お...

キ
テ
ー

駄

?!!

封
淫

解

!?

こ
な
!!

!!

!!

ズ
ズ



堪能したぜ

これ程
美味エ精気を
喰らったのは
初めてだ

ふう……

ズ
ズ

ちゅん

ズ

ズ

クク……
ちよつと惜しい
気もするな

あれだけの絶頂に
トんじまったら
もう……

……たぞ……

……ほろオ
大したもんだぜ
まだ正気を
残してるかよ

……ん？

……た……

こりやあ
まだまだ
楽しませて

耐えた……ぞ
……私……は……ッ



なッ…何だ
この霊気は…!?

あり得ねえぞ!!
あの頃より断然—

!?

…確かに
私は霊力の多きを
失っていた…
だが—

封印が破られた再の
狂おしい快樂に
私は耐えた…

—それは
貴様に
吸い尽くされた
からではない

いま全霊力が
この身にある!!

有り余る霊力の
全てを込め続けて
来たためだ!!

忌々しい程
淫らに堕ちた
この陰核…

その封印に
今日までの
年月…ツ

今度こそ
その霊気を
頂くまで—

だ…
だったら





大丈夫……です……

救援の靈波は
なんとか……
送れ……ました……

ヤツの僕の……
死に損ないか……

今度は……私が
守るから……

ズリズリ

ズリズリ

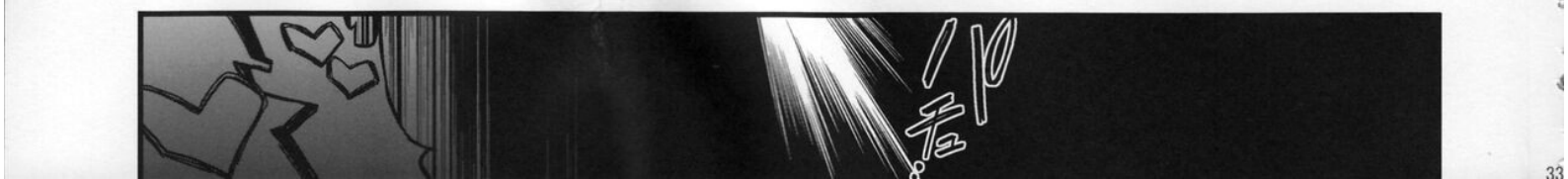


一緒に……
帰ろう……？

姉上……っ

ズリズリ

ズリズリ



ズリズリ

あとがき

■今回は久々にオリジナル本でしたが、いかがだったでしょうか。オリジナルでETDでもない本となると『女戦士く触手』以来ですね。

■僕はヒロインが初めての快樂に、それも猛烈な快樂地獄に慄く姿が好きなので、すでに犯された過去があったりするタイプのヒロインはあまり描かないのですが、たまにはこういうのも良いよね。

……まあ過去シーンで初快樂やってる上に、本編でも初めての責めに慄かせちゃってるんですけど。結局はそういうのが好きなんだなあ。

■夏コミの勇者本の続きが気になる的な話をチラホラ聞きまして、

でもあの話はあそこで終わるのがベターだと思うんだよなー
はっきりさせちゃうのは野暮と言うか……
でもちょっと見てはみたいよなー

てな感じで生まれたのが、実はこの本だったりします。

行き当たりばったりで描き進めてしまった弊害が随所に見られますが……。

■ともあれ、ここまでお読み頂きありがとうございます。
次があったらまたお会いしましょう。

- 発行日・2019/12/30
- 発行元・灯夜工房(灯ひでかず)
- 連絡先・tomosibi18@hotmail.co.jp
- 印刷・ねこのしっぽ様

18歳未満の購入・閲覧、及び無断転載は禁止
なお、触手姦は犯罪です
触手の生えた方、淫魔を召喚できる方
間違ってもその力を人に向けないで下さい

PRESENTED BY

灯夜工房